

# 2025年度 FID バasketボール 日本男子・女子代表チーム 第2次強化合宿

## **JAPAN** BASKETBALL ＜ 報告書 ＞



一般社団法人日本 FID バasketボール連盟

## 【全体総括】



強化責任者 原 美子

まずは大きな怪我や病人が出ず、無事に合宿を終えることができて安堵している。

今回は、当初の計画で男子が韓国チームとの交流ゲームを福岡で予定していたため、男女別に時期も異なる開催となった。ただし、韓国の都合でゲームはキャンセルとなったのが残念であった。

今年度は、6月にカザフスタンで Virtus World Basketball Championships があり、選手やコーチ・トレーナーの長期派遣に御理解・御協力いただいた職場や関係機関の皆様へ感謝申し上げます。

女子は、3×3 競技で第3位入賞、さらに、2023年 Global Games での優勝を讃えて日本女子代表チームが Virtus（国際知的障がい者スポーツ連盟）の総会で『BEST TEAM 賞』を受賞し、そのプレートと表彰状が練習会場に飾られていた中、代表メンバー7名全員が揃って12月12日（金）～14日（日）清水ナショナルトレーニングセンターでの合宿となった。

選手たちには、コーチから指示されたことを、よく理解しプレーに反映させようとする姿が見られた。以前より声が出るようになった選手も見られた。しかし、集合がかかった時の集まり方や、プレー中の切り替えが甘いところから指摘される場面があった。コーチからは、「12秒で得点するためには、1秒をおろそかにしてはいけない。少しでもプレータイムを維持するためにもときびきび動かなければいけない。」と、日常の練習こそが大切であることを再認識させられた。シュートタイミングを創るための戦術やシュートの確率を上げるための練習を徹底して教えてもらった。地元に戻ってどれだけ教えてもらったことを実践しスキルをアップできるかが課題である。

また、スタッフミーティングで、男子の小川ヘッドコーチより提案された2026年度の強化方針について検討しあい、加盟チームの情報なども併せて情報交換した。

男子は、12月26日（金）～28日（日）福岡市立障がい者スポーツセンターでの合宿となった。当会場は弊連盟の吉田理事が代表するクラブチーム HEROES が日ごろから練習場所として使用しており、センターの職員の方々をはじめ、HEROES の保護者の方々には大変御協力いただき感謝申し上げます。

6月の Virtus World Basketball Championships 5×5 競技で第3位となり初メダルを取得した。残念ながら、今回、韓国との交流ゲームは実施できなかったが、クリニックの開催及び地元の社会人チームとの練習試合を行った。クリニックは、九州連盟を通して周知していただき、30名ほどの方々が集まってくださった。代表メンバーが参加者たちに師範したり、教えたりすることで、知識やスキルがより確実に身に付いていったと思われる。社会人チームの代表者は、スポーツセンターの元職員の方で、現在も障がい者支援に関わっており、快く練習試合を引受けて下さったようだ。午前と午後と2ゲーム行い、大変良いゲームの実践ができた。感謝申し上げます。

また、2日目には、鈴江弁護士より、選手対象に、コンプライアンス研修として『パワーハラスメントによるトラブルを防止するために』という内容でお話ししていただいた。選手同士でもあり得るケースなど、みんな真剣に話を聴いていた。

スタッフミーティングでは、①選手の状況について ②選考基準の見直しについて ③2026年度事業について ④VIBF の状況について 検討した。今年度は、年度途中で代表を辞退するケースがあり、その点も含めての選考基準の見直しとなった。男女とも、年2～3回の強化合宿で、世界を相手にする戦術やスキルを獲得～定着することは困難であり、そのために、コーチの皆さんには、日々選手たちの報告や、適宜オンラインによる

トレーニングの指導を行って頂いており感謝したい。アスリートとして自らの生活を管理するのが難しい選手たちにとって、高い目標に向けての自身のモチベーションを保つことになり寄り添っていることを確信する。また、身体のケアについても、トレーナーの方に聞けるようになっており、心理的にもサポートしてくださっていることに感謝したい。

今回、6月の大会後に、男子代表メンバーのトレーニングのために、福岡医療健康スポーツ専門学校の方々協力して下さっており、この合宿にも見学に来てくださった。将来、トレーナーや作業療法士になることを目指している学生さんたちにとっても、実践の場であり、双方にメリットのある関係が築かれているようで大変有難いことと感謝する。

代表選手が日頃からお世話になっている所属チームのコーチの方々にも、是非、代表の練習を見て共有していただき、練習やトレーニングの機会を作っていただけると有難い。また、保護者の方々も含めて、身体のケアや、心理的なサポートの協力をお願いしたいと考える。

日本代表の活動は、多くの方々の御理解・御支援・御協力があって継続できています。また、御支援・御協賛いただいている皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

私たちは、支えてくださっている皆様への感謝の気持ちを忘れずに、選手たちが最大限に力を発揮できるよう関わっていきたくておりますので、今後とも、御指導、御支援をよろしくお願いいたします。



## 2025年度 FID 日本男子・女子代表チーム

### 第2次強化合宿 報告

#### ■事業概要

##### 1. 実施目的

- ①今年度開催された世界選手権の総括（課題と整理）
- ②海外チームを想定したスクリーミングの実施
- ③選手自身が取り組む日常のトレーニング及びパフォーマンスの成果の検証
- ④次年度の代表候補選手の選考

##### 2. 実施期間

男子：2025年12月26日（金）～12月28日（日）

女子：2025年12月12日（金）～12月14日（日）

##### 3. 実施会場

男子：福岡市立障がい者スポーツセンター 〒815-0031 福岡県福岡市南区清水 1-17-15

女子：清水ナショナルトレーニングセンター 〒424-0105 静岡県静岡市清水区山切 1487-1

##### 4. 宿泊会場

男子：ダイワロイヤルネット博多祇園 〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町 1-24

女子：清水ナショナルトレーニングセンター内

##### 5. 参加者一覧

男子：〈スタッフ7名〉

役職	氏名	都道府県	所属
強化責任者	原 美子	福島県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
男子ヘッドコーチ	小川 直樹	神奈川県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
男子コーチ	吉田 直樹	神奈川県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
男子コーチ	大川 達也	北海道	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
代表チームトレーナー	山崎美和子	静岡県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
チームオペレーション	大沼 弘法	東京都	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
サポートスタッフ	吉田 通子	福岡県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟

男子：〈選手7名〉

氏名	年齢	ブロック	都道府県	所属先	所属チーム
高山 晃	34	関東	神奈川県	いなげや横浜西が丘店	YOKOHAMA MAJORS
渡辺 稜	27	関東	東京都	(株) パソナハートフル	TAMA OTP
末永 健翔	25	九州	福岡県	ストレッチアップ福岡	HEROES

平塚 天清	26	九州	宮崎県	(社福) エデンの園	ブルーホーク
中嶋 高志	26	九州	福岡県	(株) ノースリバー	HEROES
山本 哲平	18	近畿	大阪府	すみでんフレンド(株)	NANIWARS
滝沢 悠太	19	北海道東北	北海道	札幌スポーツ&メディカル専門学校	SAPPORO RISE

女子：〈スタッフ10名〉

役職	氏名	都道府県	所属
強化責任者	原 美子	福島県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
女子ヘッドコーチ	一松 倫子	神奈川県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
女子コーチ	花輪希美圭	山梨県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
女子コーチ	猪崎 智子	神奈川県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
女子コーチ	齊藤 桃子	神奈川県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
代表チームトレーナー	山崎美和子	静岡県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
代表チーム看護師	原田 彩加	静岡県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
チームオペレーション	大沼 弘法	東京都	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
チームオペレーション	関 圭子	神奈川県	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟
チームオペレーション	氣田 陽介	東京都	(一社) 日本 FID バスケットボール連盟

女子：〈選手7名〉

氏名	年齢	ブロック	都道府県	所属先	所属チーム
岸 カイラ	26	関東	神奈川県	第一三共ハピネス (株)	藤沢ウイング
宮本 梨々奈	21	九州	沖縄県	(株) サンエー	沖縄県 FID バスケットボール連盟
徳山 未来	22	東海北信越	愛知県		豊田クラブ
塚本今日香	23	東海北信越	静岡県	(株) ジャパン・スリーブ	静岡クラブ
田中 優香	18	東海北信越	長野県	飯田短期大学	CHIKUMA NEW HOPES
坪川 美穂	24	関東	神奈川県	イオン金沢シーサイド店	Team Amici
奥原 彩花	20	中国四国	山口県	東洋パックス (株)	TAC 田布施アスレチッククラブ



■全体スケジュール

男子チーム第2次強化合宿

	12月26日(金)	12月27日(土)	12月28日(日)
7:00		起床/朝食	起床/朝食
8:00		移動	移動
9:00		練習②	練習③(スクリメージ)
10:00			
11:00			
12:00		昼食	休憩
13:00	現地集合		練習④(スクリメージ)
14:00	チームミーティング	研修(コンプライアンス)	
15:00	練習①	クリニック	ミーティング/片付け
16:00			現地解散
17:00	更衣/移動	更衣/移動	
18:00			
19:00	夕食	夕食	
20:00			
21:00	ケア	ケア	
22:00			
23:00	就寝	就寝	

女子チーム第2次強化合宿

DATE	12/12(金)	DATE	12/13(土)	DATE	12/14(日)
TIME	SUBJECT	TIME	SUBJECT	TIME	SUBJECT
		6:00	シューティング、マシンガンパス	6:00	シューティング
		7:00	朝食	7:00	朝食
		9:05	フリーアップ	9:00	マシンガンパス
		9:15	1分間レイアップ	9:15	ドリブルハンドオフからのシューティングドリル
		9:45	ドリブルハンドオフからのシューティングドリル	9:50	ドリブルハンドオフからの2on2
		10:10	ハンドオフからの2Pシュート(2人組)	10:05	セットプレイの確認
		10:40	ドリブルハンドオフから2on2	10:15	3×3(3分・10分)
		11:10	セットプレイの確認	11:20	ダウン
		11:40	3×3(3分)	11:30	終了
		11:50	ダウン		
		12:00	昼食		
		14:00	ウォーミングアップ		
14:40	ウォーミングアップ	14:15	シューティングドリル(ターンシュート)		
14:50	ドリブルワーク	14:25	リバウンドシュート		
15:00	1分間レイアップ	14:30	ドリブルハンドオフからのシューティングドリル		
15:20	ボールミートからドライブ	15:00	ドリブルハンドオフからの2on2		
15:35	ドライブからキックアウト(2P)	15:15	セットプレイの確認		
16:00	ボールミートからの1on1	15:30	3×3(3分・10分)		
16:30	2on2	16:45	シューティング		
16:50	ダウン	16:50	ダウン		
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:30	シューティング	19:30	トレーニング確認、シューティング		
20:45	終了	20:50	終了		



日本男子代表チーム  
ヘッドコーチ 小川直樹

### 【男子総括】

年末を迎える12月26日（金）から2泊3日のスケジュールで今年度の第2次強化合宿を福岡県福岡市にて実施した。VIBF（国際知的障がい者バスケットボール連盟）の活動方針の元、アジアエリアでの活性化を図る為、COVID-19の影響により中断していた隣国韓国との交流を再開する計画を今年度当初より計画し、両国関係者の間で調整をしながら進めてきた。先方の渡航を考慮して福岡市での実施を決定したが、諸般の事情により急遽来日が不可となった。韓国とは関係を維持しながら次年度以降実施する方向で現在も対話を進めている。そのため予定を変更し、福岡を活動拠点とするクラブチーム（那珂川クラブ）に協力を依頼し、最終日にはスクリメージと実戦的な動きの中で今年度の総括を行った。また久しぶりの地方での代表合宿の実施であり、九州連盟に協力をいただき、競技の強化普及、選手発掘の一環としてクリニックを開催した。ファンダメンタルからスクリメージまで幅広い内容であったが、代表選手が模範となり参加者にアドバイスをする等、良き経験の場となり大変有意義な時間を過ごした。

初日の練習前には1時間ほどのチームミーティングを行い、世界選手権の総括を行った。最大の目的であった念願のメダル獲得が出来たことに評価をし、選手に労いの言葉をかけた。しかしながら世界一になった訳ではなく、更なるチャレンジが続くことを伝えた。大会で我々の何が通用し、何が通用しなかったのかを端的に説明をし、理解を求めた。大会終了後、半年が経過し、選手がどこまでイメージとして残っているかが不安であったが、極力わかりやすい数字や言葉を用いた。

スキルや戦術については時間を掛ければ改善は見込めるが、今回の世界選手権では渡航のハードスケジュールに加え、半月以上異国の地で生活をしながら戦うという今まで経験したことのない環境下に、メンタルの部分で選手自身かなりのストレスが生じた。また3人制の大会終了後、中1日を挟んで5人制の大会に突入するというスケジュールに疲労が溜まり、身体も悲鳴をあげた。ゲームでは極カタイムシェアを考慮したが、どうしても出場時間が長くなる選手は存在する。「タフでなければ戦うことは出来ない」ということを改めて共通認識として捉えた。障害特性によって気持ちのコントロールを苦手とする選手が多い中、コーチングスタッフは都度その対応に迫られるが、全てが解決できる訳でもない。選手自身が克服する努力も必要ということを取って伝え、今後も同様なスケジュールで国際大会が開催されることも予想され、心身の強化は必須となる。

また、5人制の初戦で勝利を納めたポルトガル戦だが、セミファイナルでは惜敗した。これは選手自身の競技に於ける経験の差といっても過言ではない。ポルトガルは出場国の中で平均年齢が一番高く、トランジションを苦手とする。しかしながらハーフコートバスケットの精度は高く、自分たちのプレースタイルを最後まで貫く姿勢は我々としても多いに学ぶべき部分である。一朝一夕とは行かないが、常にバスケットボールという競技を勉強する必要があることも選手に伝えた。

**2025 Virtus World Basketball Championships**

大会総括

目標

2025世界選手権でメダル獲得

成果 **5x5競技 銅メダル獲得**

目標達成!

- 2 -

一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟  
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability

JAPAN BASKETBALL

**2025 Virtus World Basketball Championships**

大会総括

目標

- 質の高いトランジションバスケットボールの展開
- FG%の向上(個人課題/チーム課題)
- 複数のディフェンスを駆使(相手を混乱させる)
- 「負けてたまるか」という強いメンタリティの保持

結果

- ・相手国へ脅威と感じさせることに成功
- ・アウトナンバーを利用したシュートメイク
- ・選手によりシュート率にバラつきがあった ※次のスライド参照
- ・相手のオフェンスに混乱が生じた
- ・トレーニング成果によるフィジカル強化でハードスケジュールを乗り越える
- ・疲労の蓄積

- 3 -

一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟  
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability

JAPAN BASKETBALL

**2025 Virtus World Basketball Championships**

大会総括

スタッツ

※全5試合の合計値

No.	選手名	PTS	M/A	2pts %	M/A	3pts %	M/A	FT %	AS	ST	BS	Def	Off	Tot	TO	PF	Time			
4	山本 貴	31	14/31	45.2%	0/1	0.0%	14/22	45.5%	3/5	60.0%	6	5	0	25	21	46	11	5	12	139:24
5	松本 貴	14	15/30	50.0%	0/21	0.0%	24/31	47.3%	17/21	81.0%	37	4	0	13	4	17	19	17	19	154:20
7	鈴木 健樹	144	39/85	45.9%	10/34	29.4%	49/119	41.2%	36/45	80.0%	30	34	0	16	8	24	18	29	7	133:47
8	中塚 玄策	52	11/44	25.0%	8/40	20.0%	19/84	22.6%	6/15	40.0%	20	8	0	21	7	28	20	10	15	157:23
9	櫻村 潤哉	25	7/16	43.8%	3/17	17.6%	10/33	30.3%	2/9	22.2%	10	5	0	9	3	12	10	6	7	70:44
10	中嶋 真生	29	10/33	30.3%	1/1	100.0%	11/34	32.4%	6/13	46.2%	2	7	0	43	18	61	7	9	34	155:35
11	山本 哲平	51	10/35	28.6%	7/26	26.9%	17/61	27.9%	10/19	52.6%	17	13	0	4	3	7	13	11	6	101:27
12	渡辺 悠太	17	7/14	50.0%	0/0	0.0%	7/14	50.0%	3/10	30.0%	3	9	0	10	15	25	7	7	7	87:20
Team	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	19	39	1	0	-
Total	423	113/288	39.2%	38/140	27.1%	151/428	35.3%	83/137	60.6%	132	86	0	161	98	259	96	84	87	1000:00	

・ さらに上の順位を目指すには、FG%の向上が必須条件になる

- 4 -

一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟  
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability

JAPAN BASKETBALL

**2025 Virtus World Basketball Championships**

大会総括

財産

- ・ 日本人特有の身体能力を生かすトランジションバスケットボールの確立

銅メダルで決して満足しないための課題

- ・ 世界選手権で得たものをさらに高いレベルで表現する
- ・ FG%の向上(チーム・個人)
- ・ フィジカル、メンタルを含めたコンディショニング調整(タフさ)
- ・ バスケットボールという競技の学習

- 5 -

一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟  
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability

JAPAN BASKETBALL

合宿の内容は以下、コーチの報告を参照していただきたいが、ここでは選手のサポートについて触れたいと思う。我々の強化活動は年間に多くて10日間程度である。それ以外、選手は所属チームもしくは都道府県の選抜チームで活動している。毎日選手からSNSを利用して現状確認の報告を受けるが、顔を合わせて話をする訳ではない。何か問題が生じればメールでのやり取りで指示やアドバイスを送っている。今年度は世界選手権前に1名、第2次強化合宿前に1名の代表チーム辞退者が出た。それぞれ個人的な問題を抱え、最終的に代表辞退という最悪な結果を選択している。そのような選択をする前に我々代表のコーチングスタッフで解決の糸口は見つけられなかったのかという自問自答を繰り返すが、現実的にはサポートの範囲の問題もあり、残念ながら答えを見つけれずにいる。また選手の障害特性も様々であり、多種多様なサポートを必要とする。現時点では我々代表チームのコーチングスタッフがサポートをするには限界を感じており、選手の保護者、クラブチームのコーチングスタッフ、はたまた職場の上長まで幅を広げ、連携を図りながら体制を構築しなければ精度の高いサポートは出来ないのではないかと感じている。この部分は我々の中でも慎重審議を行い、方向性を出していきたいと考えている。日本の代表チームは国、また活動に賛同していただいている多くの協賛企業、団体、個人様から支援を受け活動が成り立っている状況にある。多くの期待を背負い国の代表として世界で戦うチームである以上、責任を持って勝利を追求し、団結しながら真摯に取り組まねばならず、そのためにはサポート体制の再構築は急務であると感じている。

また、多くの支援を賜りながら活動出来る現状に慣れが生じ、「当たり前」的な発想を描く選手が見受けられ、ミーティングの中でも苦言を呈した。国を代表とする選手はロールモデルとして自覚を持たねばならず、振る舞いを含め、姿勢と意識の見直しを改めて求めた。謙虚に常に感謝の気持ちを持ちながら活動するというベースを決して忘れてはならない。

**みんなに愛される、応援されるチームとは何か...**

現在、日本代表チームを支援していただいている企業・団体の数

2025年度 **35** 団体

新しく支援していただける企業が増える一方で、支援を打ち切る企業もあります。  
この数字を見て、多いと感じますか、少ないと感じますか。

**Q** 応援していただけることが当たり前と思いませんか？

支援していただける企業・団体・個人スポンサーがいなくなれば、我々の活動規模は減退します。  
国内合宿への参加、国際大会出場にかかる費用もすべて自己負担となります。

- 6 -

一般社団法人日本バスケットボール連盟  
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability



**みんなに愛される、応援されるチームとは何か...**

世界選手権では一生懸命戦っていたのに、所属チームでは一生懸命プレーしないのはなぜ？

あんな態度をとっている選手が日本を代表しているの？

あのようなプレーをしている選手が日本代表なの？

代表チーム合宿ではレフトのジャッジに文句を言うことを教わるの？

**日本を代表する選手像**  
代表活動中かどうにかかわらず、常にロールモデル(模範、手本)であるという自覚が必要である。

- ひとつのプレー、ひとつの態度、懸命に戦う姿が見ている人々の感情を揺るがし、それが日本代表チームへの感情移入とともに勝意に変わる。
- 多くの人々からの支援や声援を自分たちのパワーに変えることが重要である。

- 7 -

一般社団法人日本バスケットボール連盟  
JAPAN BASKETBALL FEDERATION for players with an Intellectual Disability



弊連盟の中長期計画の中で今年度の世界選手権でメダル獲得を目標として掲げている。大きなプレッシャーを抱えながら、世界選手権にて3位という結果で初のメダルを獲得出来たことに喜びを感じると共に、選手もスタッフも本当に頑張ってくれたことに感謝をしたい。特に選手とは合宿、大会期間中に多くの対話を繰り返し、コミュニケーションを図ってきた。過去、様々な方面から男子は世界でメダルを取ることが出来ないと続けられてきた。勝てない現実にも多くの悩みを抱えてきたが、様々なサポートを受けながらようやく世界で戦うベースが出来た。今後、日本人の特性を活かした日本独自の戦術を駆使しながら強化を継続すれば結果は自ずと出てくるであろう。身体的なサイズや強度の問題以前に、日本人らしい戦い方を身につけてコートの中でパフォーマンス出来るように今後も鋭意努力をしていく所存である。

今合宿で今年度の強化事業を終えるが、前途したように日本全国から多くのサポートを受けることが出来、チームが戦える環境が揃うことに感謝を申し上げたい。来年度以降、2032年のブリスベンパラリンピック正式種目採用を目指しながら国際大会が続き、世界ランキングポイントも付与される予定である。結果を求め、その過程も大事にしながらチーム強化をしていきたい。

最後に今合宿では HEROES (福岡市) の保護者の方々、福岡を拠点とするクラブチームの那珂川クラブチームの皆さん、そして福岡医健・スポーツ専門学校の皆さんに大変お世話になりました。チームを代表して御礼申し上げ、今合宿の総括と致します。



日本男子代表チーム  
コーチ 吉田直樹

**【所見】**

今年度、強化合宿としては2回目の活動となった今合宿は直前での負傷者等が発生し、7名での実施となった。また、当初アジア諸国との連携強化を目的とし韓国チームとのスクリーメージを想定していたことから福岡県福岡市での開催となったが、急遽先方の都合によりキャンセルとなり韓国チームとの連携強化は叶わなかったが、地元社会人チームの方々にご協力をいただき、今年度の最終強化事業として世界選手権(2025年6月@カザフスタン)の総括及び実戦形式を交えながら、次年度に向けた強化合宿を実施することができた。また、近年は静岡県清水市(J-STEP)をメインのキャンプ地としていたが、今回は地方での実施ということもあり、競技の普及・選手の発掘を目的としたクリニックを実施することもでき、非常に有意義な合宿となった。

代表合宿自体はカザフスタンでの世界選手権以降、今年度最後の活動としてはじめての招集となったが、各選手のコンディション調整が不足していると感じた。メダル獲得という大きな目標を達成したが故の事象とも考えられるが、継続して各選手の状況をフォローしてきたいと感じた。

ポジション別トレーニングではインサイドを担当したが、日頃実施しているトレーニングの成果がなかなかバスケットに反映されておらず、具体的には「トランジションに耐える走力・体力の向上が見られない」こと。日々の報告にて走ることについては報告がされているものの、社会人チームとのスクリメージにおいて、課題を再認識することができた。合宿終了後から早速、選手に対しては「目標心拍数」を設定し、ラントレーニングに取り組むよう指導をした。

次年度からは新たな戦力が加わることも想定されており、選手個々の意識向上、チーム内競争の更なる活性化を図りつつ、各選手のスキルアップ・ベースアップに寄与してきたい。

ガード・フォワード、インサイドともに、これまで代表にいた選手は今まで以上に危機感を持つ必要があり、この点については今後の活動の中で各々が意識しレベルアップに繋がるべく、来年度以降についても引き続き声をかけていきたい。



日本男子代表チーム  
コーチ 大川 達也

#### 【所見】

今年度、第二次強化合宿を福岡市立障がい者スポーツセンターにて実施した。カザフスタンでの世界大会終了後、約6か月ぶりの合宿であり、選手にとっても、スタッフにとっても、現状を再確認する重要な機会となった。本合宿では、ミーティングを通して世界大会での成果と課題を整理し、社会人チームの協力を得ながら、試合形式を中心とした実践的な練習を行い、課題の修正に取り組んだ。実際の試合に近い状況の中で、各選手の強みや改善点がより明確に表れた合宿であった。

また、2日目の午後には九州地区バスケットボールクリニックを実施した。多くの選手が参加し、代表選手に憧れを抱きながら、一つ一つのプレーに歓声を上げ、笑顔でバスケットボールに取り組む姿が大変印象的であった。今後九州地区に限らず、全国各地でこのようなクリニックを継続的に実施することが可能になると、IDバスケットボールの認知向上と普及につながると強く感じた。

本合宿を通して感じたことを、以下の2点に分けて報告する。

#### 1. シュート%の向上について

スタッツの分析により、ミドルレンジおよび3ポイントシュートの成功率には選手間で差があることが明確となった。試投数の違いはあるものの、良い準備（姿勢やタイミング）ができている状態でのシュートや、チームとして意図的に作り出したシュートが何本あったのかを、選手自身が把握できているかも改善に向けた重要な要素である。

また、日頃取り組んでいるシューティング方法についても再考が必要である。ペアシューティングにおいて、常に良い姿勢で〇本中〇本成功させることも大切ではあるが、最も重要なのは、試合中の場面を想定した動きの中で、どれだけシューティングに取り組めているかという点である。例えば、リバウンドとシューターに分かれる形だけでなく、ドライブからのキックアウトを受けてのシュート、あるいは自らリバウンドを取り、パサーに

戻してからポジションを移動し、キャッチ&シュートを行うなど、実際の試合動作を取り入れたシューティングに意識的に取り組んでもらいたい。

☆ その場でパスを受けて打つだけでなく、試合を想定した動きのあるシューティングを行うことが重要である。

## 2. 心身のコンディション調整について

① 身体的な面（技術面）については、トレーニング不足が目立った。特にインサイドの2名については、体力不足が顕著であった。トレーニング不足については、毎回の合宿で全選手が指摘されている点であるが、スタッフが伝えている「トレーニング不足」とは、「トレーニングをしているか、していないか」という単純な話ではないということを、選手には改めて理解してもらいたい。例えば、ウェイトトレーニングは何のために行っているかと問われたとき、どのように答えるだろうか。大切なのは、「ただ行う」のではなく、「目的をもって取り組む」ことである。選手一人一人がバスケットボール選手であることを忘れず、競技中のパフォーマンスを高めるために必要な準備とは何か（ウェイトトレーニング、ランメニュー、シューティングなど）を考えながら、日々の自主練習や所属チームでの練習に取り組む姿勢が求められる。

☆ トレーニングは常に目的を持ち、「なぜこのトレーニングが必要なのか」を理解して取り組むこと

② 気持ちのコンディションについて、モチベーションが上がらない、何をしてもうまくいかないと感じる時期は、誰にでも起こり得るものである。そのようなときに、自分なりの解決策を持っているかどうか重要となる。多くの選手に共通して見られたのは、受け身の姿勢であり、「誰かが気付いて声を掛けてくれるだろう」といった考え方である。「自分から」相談する、「自分から」行動することに課題があると感じた。自分の状態を言葉にして伝えること、分からないことを分からないと言うこと、うまくいっていない状況を認めることは、勇気のいる行動であり、簡単なことではない。しかし、それらは自分自身を理解し、好不調を自分で把握するなど、自律する力を養うために欠かせないものである。これらの力もまた、日頃の積み重ねによって身に付けていくことができる。

☆ 困ったとき、自分一人で解決が難しいときに「話す」習慣を身に付けること

☆ 行動の起点を「自分から」にする意識を日常から持つこと（自分から相談する、自分から準備する等）

バスケットボールは「習慣のスポーツ」と言われるほど、日頃の準備がコート上のパフォーマンスに直結する競技である。今回の合宿では、技術面以上に精神面の課題が目立った。良いプレーと気持ちの安定は比例するものであり、試合の場面で突然できるようになることは、ほとんどないと言ってよい。例として、日頃の練習でイージーシュートを外す、速攻に参加せずコート内をゆっくり移動するといった行動は、公式戦でも同様に起こる。練習で取り組んでいることは、良い点も悪い点も含めて、そのまま試合に表れるということだ。だからこそ、自信を持って試合に臨むためには、日々の準備が何よりも大切である。本合宿で確認された内容を常に意識し、自チームでの練習やトレーニングにつなげていくことを期待したい。

最後に、本合宿の実施にあたり、会場を御提供いただいた福岡市立障がい者スポーツセンターの関係者の皆様をはじめ、準備から後片付けまで御協力いただいた HEROES スタッフ・選手の皆様、また選手のトレーニングを支えていただいている福岡医健・スポーツ専門学校の先生方ならびに学生の皆様に、心より感謝申し上げます。



日本女子代表チーム  
ヘッドコーチ 一松倫子

### 【総括】

今年度は、長くチームを牽引してきた選手が引退し、フレッシュマンキャンプを経て2名の選手が新たに加えるなど、新たなチーム作りを始める年であった。世界選手権は6月に開催されたため、年度が変わって行える合宿が1度のみであった。新チームになったばかりということや派遣が4人になったことなど、選手たちは不安を感じながら臨んだが、それぞれができることを精一杯やりつくし、メダルを持ち帰ることができた。そのことは、大きな自信につながり、「次の大会はこのメンバーで勝ちたい」という気持ちが出てきて、いよいよ新チームがスタートできると感じた大会となった。今合宿では、次回の大会に向けてセットプレーを取り入れた。ベースとなる動きに自分で判断してプレーする場面が出てくることもあり、プレーの幅ができた。ディフェンスする意識が高まってきているので、最終日には引き締まったスクリメージができ、今年度の合宿を終えることができた。プレーに向上がみられるものの、やはり課題は体力、筋力面である。トレーニングは、コーチから提供されたメニューのトレーニングを行ったり、ジムやトレーナーのサポートを受けたりしている選手もいるが、瞬時に態勢を整えたり、ボールを引きつけたりするなどができない。チャンスが作れてもボールをハンプルしたり、パスミスになったりすることが多く、プレーの中にトレーニングの成果が確認できる場面が少なかった。ブロック委員、所属チームのスタッフと連携が足りていないことも一つの要因であるので、代表コーチの更なる努力、工夫が必要である。

最後に、11月に行われたVirtusの総会で、日本チームがBestTeam2025に選ばれました。この賞は、選手はもとより連盟関係者やご協賛いただいている皆さま。また、ご家族や所属チームの方々、清水ナショナルトレーニングセンターの皆さまなど、このチームに関わる全員にいただいた賞だと思います。今年度も連盟の活動にご理解ご協力いただきありがとうございました。またこのような賞をいただけるよう、これからも努力してまいります。



日本女子代表チーム  
コーチ 花輪希美圭

### ○所見

今回の合宿は遅れて入った選手もいたが全員が揃い、最後まで怪我無く取り組むことができたのは、今年度の締めくくりの合宿として良かったと感じている。選手同士のコミュニケーションも円滑で、プレーが止まった際には自発的に確認しあう場面が見られ、チームとしての成長も感じる事ができた。

世界選手権から日が開いてしまい、なかなか大会で負けた悔しさや具体的な課題を意識することが難しかったが、実践練習を重ねるにつれて意識やプレーの質が向上し、ディフェンスの強度も上げていくことができた。しかし、合宿中にも話をしたが、大会では1試合目から優勝候補のチームと対戦することもある。意識次第でプレーが変わることができているため、合宿中合宿初日から最終日のような意識、強度でパフォーマンスできるように個人、チームともしていきたい。

## ○課題

今回の合宿では、前回の合宿や世界選手権から期間が空いたことも影響したのか、2P シュートやミドルシュートの精度が低下しているように感じた。整った状態でのシューティングではなく、合宿中に提案されたような様々な状況を設定したシューティング練習にも積極的に取り組む必要がある。また、持久力については5月の合宿で指摘した内容と同様である。大会中、外国選手はボールに対して強くプレッシャーをかけるディフェンスを嫌がる傾向があった。3人制は5人制よりも体力的に厳しく、強度の高いディフェンスを10分間継続できる身体づくりが不可欠である。今後もインターバルトレーニングなどを取り入れ、試合を通して高い強度を維持できる体力強化を継続していくことが求められる。

終わりに、今回も合宿実施にあたって、清水ナショナルトレーニングセンターの皆様にも多大なるご協力をいただきました。一歩外に出れば冷たい空気を感じる中、早朝から夜遅くまで素晴らしい環境で寒さを感じず快適に練習ができましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



日本女子代表チーム  
コーチ 猪崎 智子

本年6月にカザフスタンで開催された2025 Virtus World Basketball Championships（世界選手権）後、初めての代表強化合宿となった。世界選手権を映像で観て、前回よりも他国のチームの3x3理解度、日本チームへの対応力が上がっていると感じた。発展途上の競技の為、コーチ陣も常にアンテナを張り、知識や流行をアップデートしなくてはならない。

大会結果と現在の代表チームの選手の特徴を考慮して、次回の大会までに①2点シュートの確率を全員があげる。②イージーな1点を作り出す形を状況に応じて作れる型を覚える。③10分間全力でディフェンス。を念頭に今回の合宿メニューを組み、実践した。

シュートの確率については、オンライントレーニングで土台となる身体操作を習得して、オンコートでは各々ロバストシューティングに取り組んでもらい、外的要因に負けないシュート力を身につける。メニューをいくつか紹介したので、次回確率を出して、強度を再考する。

1点の取り方については、決まったエントリーを1つ決め、そこから派生させる形をいくつか用意し、繰り返し練習した。はじめは頭が混乱してしまった選手もいたが、実戦では状況に応じて使い分けられる場面が多く見られた。

ディフェンスは、「守る」と考えずに、ボールに対して攻める意識を持ってもらう。常に足を動かす事で体格差を不利と捉えず、プラス思考にする。コーチ陣が適宜声かけをして促す必要がある。次の大会まで残り2回の合宿しかない、という緊張感を持って次回の合宿をいい形で迎えられようしっかり準備したい。

今回も清水ナショナルトレーニングセンター様の素晴らしい環境の下、スポンサー様、日頃より応援してくださっている方々のお力添えで、選手全員が揃い、大きな怪我等なく合宿を終えられて幸いです。ありがとうございました。



日本女子代表チーム  
コーチ 齊藤桃子

#### <所見>

カザフスタンでの2025 Virtus World Basketball Championship 後、初めての日本代表合宿となり、来年の大会に向けて動き始める合宿となった。私自身、仕事の都合により2日目からの参加となったが、選手たちは1日目から全員が合流し、途中で離脱する選手も出ず、大きなケガ等なく合宿を終えることができた。

今回の合宿で大きな成長を見せたのは今年度から選出されたメンバーだった。まだまだ課題はあるものの、ボールの扱い方、身体の使い方、ボールへの執着心、様々な面で成長している姿が見られた。スタッフがオンライントレーニングで実施している内容を毎日のようにトレーニングして動画を送ってきてくれている選手だったため、努力していることが身になってきていると感じた。一方で、前回の合宿の時よりもパフォーマンスが落ちている選手がいたことも事実であった。合宿に向けての準備、日々の過ごし方に課題を感じる選手は一人ではない。これについては合宿のさいごに選手たちに現状での体力面やアジリティの部分での課題、それぞれで感じたことを自分たちで日々取り組むことが大切である旨を伝えさせてもらった。また、補うための取り組みでわからない部分はサポートすること、積極的に連絡をしてきてほしい旨も合わせて伝えた。

次の大会まで、代表合宿として集まれるのは1回。それまでの間に選手たち各々がどれだけレベルアップしてこられるか、それぞれの課題にどう向き合えるかによって、次の合宿でできる内容、質も大きく変わってくる。それまでの期間の選手たちのサポート、それぞれの所属するコーチ、関係者の皆様と協力して取り組んでいかなければならない。

また毎年、年度の切り替わりなどにより身を置く環境が変化したこと等による環境的要因等により、私生活が乱れる選手や、不安定になる選手も出てくる時期になる。合宿時以外の活動や取り組みに対するサポートについては今後も継続してしっかり検討していかなければならない点と感ずるとともに、改めて、所属チームのスタッフの皆様との連携の大切さ、ご理解、ご協力いただいている皆様への感謝を再認識する思いだ。

最後に、合宿を実施するにあたりサポートいただいている企業の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様、保護者の皆様、スタッフの皆様、たくさんの方々のおかげで選手たちと一緒に活動ができていることに感謝申し上げますとともに、清水ナショナルトレーニングセンターの皆様のおかげで、とても素晴らしい環境の中で合宿をさせていただけたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



日本男子・女子代表チーム  
トレーナー 山崎美和子

#### 【所見】

今回の2次合宿は女子が12/12～14の期間で清水ナショナルトレーニングセンター、男子が12/26～28の期間で福岡市立障がい者スポーツセンターにて行われた。

女子の参加選手は7名で持ち込みの負傷は数名あったが練習に支障をきたす程度ではなくテーピング

下にて参加可能であった。気候の変化による体調不良が心配される選手もいたが本合宿では体調を崩すことはなかった。しかしながら、練習強度が高くなると持ち込み部の痛みの増強や以前に痛みがあった部位の痛みの訴えがみられた。

男子の参加選手は7名で膝半月板損傷にてリハビリ継続中の選手が1名、合宿前に喘息発作についての相談があった選手が1名いたが全員問題なく練習可能であった。尚、喘息の選手においては適宜発作の有無を確認し対応をした。

持ち込みの負傷はなかったものの、痛みが通常化している選手もおりケア対応をし、セルフケアを伝える。男女ともスクリーメージが多く後半になると疲労度は高くなっていたが、離脱者はなく合宿を終了することができた。

### 【負傷・ケア件数・内容】

男子	選手名	負傷・処置・ケア
12月26日	未永 健翔	ケア:右臀部～下腿(マッサージ・ストレッチ) 左肩(P-ROM)
12月27日	渡辺 稜	セルフケア:ストレッチボード/足つぼ
	山本 哲平	セルフケア:ストレッチボード/足つぼ
	滝沢 悠太	セルフケア:ストレッチボード/足つぼ
12月28日 朝対応	未永 健翔	ケア:右臀部～下腿(マッサージ・ストレッチ) 左肩(P-ROM)

  

女子	選手名	負傷・処置・ケア
12月12日	岸 カイラ	テーピング:左もも圧迫固定
12月13日	塚本 今日香	セルフケア:ストレッチボード/足つぼ ケア:下腿部～測定部のマッサージ・ストレッチ
	岸 カイラ	テーピング:左もも圧迫固定/左膝サポートテープ ケア:左もも裏のマッサージ・ストレッチ/背部のマッサージ 痛みの訴え:右4趾PIP-jt *9月ごろ足を踏まれて腫れた。右中足部の感覚鈍麻もあるため病院受診を勧める。 合宿後受診の報告あり 骨に異常はなく、感覚の鈍さも様子見の指示とのこと。
	宮本 梨々奈	負傷:PM:3on3 練習時ボールが当たり右母指がポコツと音がしたとのこと チェック 自動・他動での痛みなし。腫れなし。様子見
	田中 優香	ケア:右下腿のマッサージ・ストレッチ・セルフストレッチ指導 テーピング:右シンスプリント
	坪川 美穂	腰の痛みの訴え:痛みの確認をし改善エクササイズを伝える。 その後練習参加、途中痛みの訴えがあるがエクササイズをすると痛みが軽減しその後練習参加。
12月14日	岸 カイラ	テーピング:左もも圧迫固定/左膝サポートテープ 右4趾パットを入れサポート
	塚本 今日香	テーピング:左の足底サポートテープ
	宮本 梨々奈	テーピング:右母指の屈曲制限

### 【合宿を終えて】

世界選手権から本合宿までの間が空いたが、選手によっては日常の報告以外でトレーニングや体調管理についての相談が来るようになっており以前に比べると自己管理の意識は高くなっていると感じている。

合宿期間中の負傷が今回男女ともになかったのは、選手の体力要素が上がってきていると考えてよいと思う反面、男子選手の中には持久力、脚力の向上が必要とされる選手が目ついた。その選手たちにはコーチ陣と相談をして、ランニングの強度を上げていくよう指示を出している。また体の使い方などが気になった選手には、気になる点と改善エクササイズ・ストレッチを伝えており、日々のトレーニングに活かしてほしいと願う。

合宿中、コーチ陣も選手に伝えていた“何のためにトレーニングを行っているのか。”を念頭に置いて選手がトレーニングを行っていきけるようフォローをしていく所存である。

最後に清水ナショナルトレーニングセンターのスタッフの皆様、福岡で行われた男子合宿において会場の設営等をしてくださった HEROES の保護者の皆様に感謝申し上げます。

# 2025年度 FID 日本男子・女子代表チーム

サポート企業・団体・サポーター様

## 株式会社デンソー様

株式会社アイズ・カンパニー様 株式会社サトー様  
株式会社 FIELD MANAGEMENT STRATEGY 様  
株式会社笹森様

株式会社 GRACE 様 株式会社 CIJ ネクスト様

株式会社誠行社様 株式会社 EIGHTIST 様 わだ薬局様  
株式会社エイトダイニング様 株式会社富士山ドリームビレッジ様  
株式会社サンシップ様 山崎自動車様

株式会社ほけんの110番様 株式会社田辺電業社様  
横浜税理士法人様 フォーカス株式会社様 ナトリ電設株式会社様  
株式会社ファントムワーク様 株式会社ジャパン・スリーブ様  
株式会社 TOKI MENTAL 様 有限会社ベルセブン様  
株式会社ヒライ様 酒と肴さえぐさ様 宮惣ケミカル株式会社様

株式会社 CIS 様 株式会社 TLH 様

ヒーローズスポーツコミュニティ株式会社様 有限会社マルヤスポーツ様  
株式会社凸様 合同会社寿老人様 秋葉原補聴器株式会社様  
NPO 法人チームふくしま様 株式会社アルバ様 ムーングローダイナー様  
株式会社ホンダモビリティ北海道 白石本通店様

石上 岳彦様 中村 一雄様 野田 悟様 須藤 昭宏様 須藤 昂矢様 杉本 正毅様  
中村 昭男様 松尾 直哉様 山田 謙治様 折笠 常弘様 山崎 千賀司様 藤井 純様

伊勢 徹様 辻 由美様 高橋 徹様 蛭川 稔様 野崎 龍華様 和田 洋幸様 鶴谷 浩之様 大野 敦史様  
笹森 勝義様 前田 陽介様 草山 堅吾様 中山 克良様 中島 正雄様 南原 勝一様 小林 千夏様 岩村 浩人様  
鶴岡 将文様 大村 亜理様 川口 正高様 川口 美樹様 角田 正博様 森本 和朗様 小森 健太郎様  
大塚 一義様 奥野 智佐之様 中山 克良様 足立 哲哉様 鈴木 雅人様 富田 順也様 小玉 隆史様  
卯木 葉子様 小林 千夏様 武ノ内 由紀子様

多大なるご支援ご声援、連盟一同感謝申し上げます

